

南部町教育行政施策の点検・評価

前へ…、前へ…、ひたすら前へ…、

南部町の教育 一歩前へ…！

[添付資料]

- (1) 令和6年度南部町教育行政施策の概要
- (2) 令和6年度南部町の教育
- (3) 令和6年度南部町教育行政施策に係る事業報告書（決算審査資料）

南部町教育委員会

[2025/8/26]

南部町教育行政点検評価委員会 委員名簿

氏 名	摘 要	備 考
原 田 雅 文	学識経験者	
川 口 有美子	学識経験者	
伊 藤 静 也	学校教育	
清 川 葉 月	社会教育	
細 田 葉 子	社会教育	
遠 藤 恒 明	保護者	

【任 期】 令和6年5月1日から令和8年4月30日まで

令和6年度南部町教育行政施策の点検・評価

I. 教育委員会の現況

(1) 教育委員（令和7年3月31日現在）

職名	氏名	性別	年齢	就任年月日	年数
教育長	福田 範史	男	64歳	H. 31. 04. 02	6年目
職務代行者	瀬田 啓道	男	50歳	H. 28. 12. 08	9年目
委員	畠 美枝子	女	69歳	H. 29. 12. 22	8年目
委員	吉田 智子	女	63歳	R. 04. 12. 08	3年目
委員	種 香子	女	61歳	R. 05. 12. 09	2年目

- (2) 会議 定例会議： 11回（議案数 28件・専決処分数 30件）
臨時会議： 1回（議案数 2件・専決処分数 0件）
教育委員協議会： 0回

(3) 会議における委員提案及び報告 4件

- (4) 活動 学校訪問・学校行事等参加 9回
町内行事・研修会等参加 7回
西部地区及び県研修会参加 5回

令和6年度、南部町教育委員会は「南部町教育振興基本計画（第Ⅲ期）」の初年度として、教育の質の向上と地域との連携等を柱に、教育行政の推進に取り組みました。新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けて、教育現場は「with コロナ」から「after コロナ」への転換期を迎え、教育活動の再構築と新たな挑戦への両立が求められる一年でした。

そのような中、令和6年8月27日には、中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について」が取りまとめられました。当該答申においては、勤務時間の適正管理の徹底、校長のマネジメント能力の向上と責任の明確化、教員評価と研修履歴の活用、教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）の活用促進など、教育委員会や学校管理職の運営責任がより明確化されたことから、制度的な働き方改革のさらなる進展が期待されるところです。

子どもたちの学びについては、令和6年12月25日文科科学大臣から「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」の諮問がなされました。このため、現在、中央教育審議会において「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両立を軸に、教科横断的なカリキュラム構成が検討されるなど、次期学習指導要領の策定に向けた議論が本格化しています。また、学習指導要領の「はじめ規定」等の見直しにより、学校現場の裁量が拡大して地域や児童生徒の実態に応じた教育課程編成が可能になるほか、生成AIやICTの活用を前提とした「知識の構造化」や「意味理解」に重点を置いた評価観が導入する見通しとなっています。

社会の変化が予測困難なほど急激な現代、教育内容の柔軟性と創造性が重視され、学校現場のカリキュラム・マネジメント力が問われる時代に入っていると認識しているところです。

これら国の動向に呼応するべく、南部町においては個々の児童生徒への実態把握に基づくきめ細やかな指導・支援により、確かな学力の定着、安心・安全な学校生活の維持につなげるため、県の基準を一年前倒しして、小学校は全学年 30 人学級、中学校は 1 年生 33 人学級、2・3 年生は 35 人学級の編成を実現しました。学校生活全般において、引き続き、よりきめ細やかな指導・支援に努め、学力向上や問題行動等の未然防止・早期対応につなげていきます。

また、部活動の質的向上や指導体制の充実、教職員の負担軽減等を目的に、部活動の地域移行に係る取組を加速させました。専門的スキルや知識を有する地域の指導者へのアプローチはもとより、クラブコーディネーターの配置により地域移行に向けての新たな体制に向けて着実に歩んでいきます。生徒にとっては、より高度な技術指導を受けられる機会が増えるとともに、他校の生徒や地域住民と関わることで、コミュニケーション力や社会性が育まれること等に期待を寄せるところです。

一方、社会教育分野に目を向けると、人口減少や地域のつながりの希薄化、社会の複雑化といった課題に対応するため、文部科学大臣が令和 6 年 6 月 25 日中央教育審議会に対し、「地域コミュニティを支える社会教育の在り方」について諮問しました。主な論点は、①社会教育人材（社会教育主事・社会教育士など）の養成と活躍促進、②公民館・図書館・博物館等の社会教育施設の機能強化と連携、③地域課題に応じた学習機会の提供と多様な主体の参画促進です。とりわけ、社会教育を通じて人々の「つながり」や「かかわり」を育み、持続可能な地域づくりを支える基盤としての役割が強調されています。また、障がい者や外国人などの社会的包摂の視点も重視され、誰もが学び続けられる環境整備が求められています。

このような中、南部町においては、次の 4 つの目標（①健康長寿・生涯現役社会の実現 ②世代間交流と共生社会の推進 ③活力ある長寿社会の実現 ④鳥取県の魅力発信）を掲げ、ねりんピックはばたけ鳥取 2024 ソフトボール交流大会を開催しました。会場となった町民野球場・運動場では、2 日間にわたって白熱した試合が繰り広げられ、訪れた全国 16 チーム・約 250 名の選手たちを南部町ならではの「おもてなし」で歓迎することができました。

町立図書館においては、子どもの読解力や自己肯定感を向上させる効果が期待できるとされる「わんこ読書会」を開催するなど、多くの新たな取組に挑戦しました。さらに、住民の皆さんと図書館運営協議会委員とが中心となり、任意団体「南部町立図書館応援団『なんぶらりー』」の設立（令和 7 年 4 月設立）に向けて数多くの協議を重ねられました。こうした日々の地道な取組が結実し、県民一人当たり 5.7 冊（令和 5 年度）という数を大きく上回る、町民一人当たり 12.7 冊（令和 6 年度）という読書実績を可視化できたことは、まさに特筆に値する成果と考えます。

総じて、令和 6 年度は、教育の「不易」と「流行」を見極めながら、南部町の教育が新たな一歩を踏み出した一年でした。今後も、子どもたち一人一人が「行きたい学校」で学び、教育の先導者・当事者である大人も主役になる南部町教育行政のさらなる充実と発展に努めて参ります。以下、重点施策として取り組んだことについて述べることで、令和 6 年度の教育行政の点検評価の総括といたします。

【総務・学校教育課】

不登校の児童生徒数及び出現率は県や国と同様に増加傾向です。スクールソーシャルワーカーによる福祉部局との連携した対応や、教育支援センターの定期的な利用、タブレット端末によるオンライン授業といった多様な取組により一定の成果が現れつつあります。新規不登校者数の割合についても、前年度の5割程度から3割程度へと減少しています。引き続き初期対応への意識を高めつつ、町の課題として情報を共有しながら学校での居場所づくり等の環境をさらに充実するよう支援してまいります。

学力向上については、学力向上の先進地である大館市より教育研究所所長を講師に迎え、師範授業と講義による教職員研修会を開催し、授業改善の視点を町内教職員で共有しました。標準学力調査の分析、指導主事による授業研究会への指導助言と併せて、学習者の表現活動を授業の中に位置づけることで学びの深化につなげ、子どもたちが学習の主体者として取り組む授業づくりを進めてまいります。

コミュニティ・スクールについては、活動の見直しと共に主体的な取組が広がり、協働活動統括推進員による取組支援やより具体的な行動化をテーマとした研修会を開催するなどして、地域とともに歩む学校づくりを進めました。町民のコミュニティ・スクール活動への参画意識高揚を目指した情報発信にもより一層努めてまいります。

部活動改革の推進については、「南部町部活動あり方検討委員会」の提言を受け、部活動改革推進期間として令和7年度はサッカーと剣道を先行して地域クラブへ移行することとなりました。他の運動部についても、指導員や活動場所の目途がつきつつあります。文化部については現在活動している部活動の移行を配置しているクラブ指導員を中心に進めているところです。令和8年度の「南部町型地域クラブ方式」に向け、さらに整備してまいります。

ICT活用については、大型モニター更新6年計画の5年時を終え、すべての普通教室に加え、6年度は特別支援学級教室、特別教室の17台を更新しました。普通教室での授業に限らず、多くの授業場面で大型モニターを活用できる環境となりました。指導主事及びICT支援員によるタブレット端末を使った教職員との情報共有やリアルタイムな情報提供による支援も引き続き充実させてまいります。

【人権・社会教育課】

「キナルなんぶ」では、学び・交流・情報を3つの柱に新たな活動や価値を生み出し、生涯にわたって活躍できる施設として町内外を問わず存在感を示しており、「キナルなんぶ100万人プロジェクト」と題して各種イベントを行い来館者数の拡大を図っています。また、当該施設内のなんぶふれあい館についても、文化財保護啓発の場として多くの方に利用されています。

公民館運営審議会が中心となり、町内の社会教育関連審議会委員等が一堂に会して、中長期的に実現をめざそうとする事業について、公益性、波及効果、緊急性、重要性ほか、実現可能性を高める観点から意見交換、新規事業の創出等につなげるため、「社会教育関連『拡大審議会』」を開催し、6年度は「図書館の活用」テーマに研修とグループ協議を行い、様々

なご意見をいただきました。

高校生サークル・新☆青年団の活動では、社会教育主事と地域おこし協力隊員が伴走者となり、自立的・公益的な活動に、高校生サークルは年間 34 活動のべ 129 人、新☆青年団は 47 活動のべ 200 人が参加し、南部町に貢献することができています。具体的には、各種ボランティアの他、国内外の研修で異文化に触れ、その地域の活動を学び、「World Festa Nanbu2024」と題したイベントを開催しました。そこでは、海外の生活（衣装・食）に関するブースを設け 200 人の来場者がありました。

地域おこし協力隊員が、小中学生対象の教育プログラムの開発を行い、「放課後アートクラブ」をキナルなんぶといこい荘で 32 回開催し、のべ 377 人の参加がありました。また、児童が作成した作品を「生涯学習作品展」で展示しました。

社会体育においては、「ねんりんピックはばたけ鳥取 2024」が開催されました。南部町はソフトボール交流大会を全国各地から 16 チーム約 250 名の選手等を迎え、応援のぼり旗の作成や健康づくり教室、ふるまい料理などを実施し、ホスピタリティ溢れる大会とすることができました。

「南部町における部落差別をはじめあらゆる差別をなくす総合計画」を基に、ミカエル・セミナー、人権コンサート、研究集会等すべての町民を対象にした人権啓発活動を実施するとともに、各地域振興協議会と人権学習推進委員が連携した学習会を開催し、914 人の参加がありました。これら各種活動を継続し「人権文化のまちづくり」を進めてまいります。

子育て世代の家庭教育の支援として、その「なかまづくり」のため「みんな集まれ！あそぼう広場」として、木に触れ合う「木工教室」や「プール教室」など 6 回開催し 198 人の参加がありました。また、保・小中の連携を基盤としながら、地域や関連機関と協働した家庭教育の充実に取り組むため、町内小学校 1 年生の全 78 家庭を対象とした戸別家庭訪問を年 3 回実施しました。

文化財の保護については、既存文化財、特別天然記念物等の保護・管理を適正に行っています。6 年度は「法勝寺電車開通 100 周年記念イベント」を開催し、町内外に法勝寺電車の文化財価値を発信することが出来ました。また、新たに「生田家住宅」が有形文化財登録となり、その保護や情報共有をすすめてまいります。

図書館においては、「つながる」のキーワードを継続しながら各種事業を展開しました。働く世代を対象にしたビジネス講演会では、講演会をきっかけに初めて図書館に来館された方もあるなど、図書館活動の周知に繋がりました。また、子どもたちを対象に、犬に読み聞かせをする「わんこ読書会」や「図書館クイズ」、「科学教室」などを実施し、子どもたちの図書館利用につなげる取組ができました。図書館を活動の場としてとらえる図書館応援団が発足し、今後の活動に期待しています。